

森林・林業等を取巻く
環境の講演と、
「郷土の森」の整備を実施

【名古屋事務所】

十月二十五日、(一社)名古屋林業土木協会青年部の研修会が、部員四十名参加のもと名古屋市内において開催されました。

同協会では、次代を担う人材育成の一環として青年部を組織しており、研修会、有識者による勉強会、各地域での国有林をフィールドとした社会貢献活動などに積極的に取り組んでいます。

研修会では、協会役員から「選ばれる森林土木への協会活動」など技術指導を行い、当局長から「森林・林業・木材産業政策の動向と国有林の役割」について講演を行いました。

また、研修会に先立ち、森林・林業社会貢献活動として、名古屋事務所「熱田白鳥の歴史館」に隣接する「郷土の森」において、剪定作業・枝葉の処理などの環境整備を行っていただきました。

「郷土の森」は、クスノキを主体



郷土の森で枯れ枝の除去などを実施

とする高齢級の常緑広葉樹林で、枝葉の繁茂や枯れ枝等が多く、隣接する白鳥庭園やタワーマンション、名古屋学院大学への通学など、歩行者や自動車への安全面も危惧されていました。

今回青年部の方々と連携して、高枝切挾等を使用し、枝の剪定や枯れ枝等除去を行ったことにより、安全に通行できるようになり、職員一同感謝しています。

中部ブロック林業成長産業化
構想技術者育成研修を応援

【森林技術・支援センター】

十一月七日から十日の四日間、下呂市及び七宗町において開催された、中部ブロック林業成長産業化構想技術者育成研修に、中部局職員と石川・富山・長野・岐阜・愛知・滋賀・岩手県から十四名の受講生が参加し、当センターが研修運営の応援にあたりました。

この研修はICT等の最新技術を活用し、効率・効果的な路網計画を中心とした循環的な木材生産の戦略を描き、林業の成長産業化に向けた構想を作成する人材育成を目的として、中央研修と併せ、全国六ブロックで実施されています。

中部ブロック研修では、中央研修の座学で学んだ内容の振り返り、現地実習や演習を通じて実践力を養うことをテーマとしたカリキュラムとなっており、初日は外部講師による地域特性に応じた森づくり構想の講義等が行われました。

二日目は岐阜県管内の国有林及び隣接する民有林で、路網計画の



「林業成長産業化構想演習」の発表状況

現地検討や森づくりの現地実習を行い、三日目は各班で実際に路網・森林整備・木材生産の各事業計画と林業成長産業化のための戦略を練り、四日目には、その検討結果を発表し、質疑応答を行いました。参加した受講生からは、「最新技術や各種ソフトを活用して、市場のニーズに応じたサプライチェーンを含めた戦略や構想作りのノウハウを学習できた」などの声が聞かれ、技術力養成への一助となる研修となりました。

当センターでは今後も当該研修の現地スタッフとして、研修の運営をサポートしたいと考えています。



林業事業者から架線集材について説明を受ける伊那市議会議員

林業現場の現地視察を実施

【南信森林管理署】

急傾斜地における集材方法として、架線集材が注目されており、この度、伊那市議会及び長野県南信州地域振興局より架線集材箇所^{くわせんしゅうさい}の視察依頼を受け、伊那市長谷黒河内^{くろがわうち}国内有林で実行中の森林環境保全整備事業をご覧いただきました。

伊那市議会議員の視察は、十一月七日に経済建設委員会を中心に十一名、事務局等として伊那市役所より六名の計十七名が参加し、また、南信州地域振興局の視察は、十一月十六日に、飯田市・下伊那郡選出の県議会議員、大鹿村議会議員、南信州地域振興局より三名、大鹿村役場より二名、大鹿村の林業従事者一名の計八名が参加しました。

視察した事業地は、一、〇〇〇〇坪を超えるロングスパンの本格的な架線集材を行っている現場であり、当署職員より事業の概要、架線集材のメリットや課題について

説明し、請負事業者の平澤林産有限会社より、架線の説明やリモコンによる集材作業、安全を確保しつつ、作業の効率性等を高め、いかにコストを抑えていくか、また、林業における人材の確保や育成といった現状についてもお話をいただき、視察された方々からも意見や質問が飛び交い、熱心な意見交換を行いました。

これまで、路網整備や高性能林業機械の導入、改良等、路網系作業システムによる効率化が進められてきましたが、今後は急傾斜地における間伐や主伐、再造林等の森林施業も必要となることから、架線系作業システムによる効率的な作業は避けて通れない課題となります。

索張り技術を有した人材の不足、熟練技能者の高齢化などの問題に対し、人材の育成や、先端技術を活用した林業機械の自動化、遠隔操作化が重要となっています。

これからも国有林で行われている事業が地域への情報発信となるよう努めてまいります。

シリーズ

森林官からの便り

【岐阜 岐阜森林管理署

小坂森林事務所

森林官 中澤 栄貴

岐阜県下呂市の北部、霊峰「御嶽山」の西側に位置する小坂町は、山頂と麓との標高差が約二、五〇〇メートルと大きく、地形が急峻であり、豊かな森林から豊富に流れる水が多く、滝を形成し、「日本一滝の多い町」として知られています。

さらに温泉も多く、日本では希少な天然炭酸泉の温泉も湧き出て



特産エゴマの五平餅が美味

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

おり、御嶽山登山者たちの身体を癒しています。

そんな小坂町にある当事務所は、滝上・赤沼田・門坂の三つの国有林を管理しており、わずかに天然林が残っていますが、大部分はヒノキ・スギの人工林となっています。

なかでも赤沼田国有林には江戸時代の天保年間に植栽された岐阜県最古のヒノキ人工林（一八〇年生）があり、学術的・歴史的にも貴重であることから、「赤沼田天保ヒノキ希少個体群保護林」に指定し、保護・管理を行っています。林内には植栽されたヒノキのほか、自然に生えた木、枯木や倒木などがあり、林況が複雑で様々な動植物を見ることができ、自然の豊かさを感じることができます。

そのような貴重な森林を守ることも森林官の仕事の一つですが、他に造林事業などの監督業務や境界の保全、増え過ぎたシカの捕獲



岐阜県最古のヒノキ人工林

をはじめとした獣害対策、林道の維持・補修など、現場の最前線で様々な業務を行っています。山によっては笹などが生い茂り、一歩進むのも一苦労といった現場もありますが、そのような現場ほど仕事が終わった後の達成感は一入です。

■未来の担い手へのメッセージ

森林に関わる仕事は幅広く、また、新しい技術も日々導入されるため常に勉強が必要ですが、地域や季節ごとに違う顔を見せてくれ



レーザー計測器で森林調査を行う筆者



シリーズ

「私の森語り」

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。



「想いをつなぎ、心豊かな

共感社会づくりを目指す」



株式会社エスウッド 代表取締役 長田 剛和

■自己紹介

岐阜県各務原市で、国産材ストランドボードの開発・製作や、社会や地域の声を反映した建材のカスタマイズを実践している共感開発メーカーの代表をしています。

エスウッドでは、想いの共感できる仲間と、環境、まちづくり、教育の三つの柱で活動をしています。

■活動内容

エスウッドは、森林資源が豊富な岐阜県の恵みをいただき、地域材、特に間伐材や小径材に新たな価値を、新たなマテリアル利用を



岐阜県産ヒノキのストランドボードを 書架、収納ケース、テーブルなどに使用 (ぎふメディアコスモス)

していくことを目的に設立しました。岐阜県の特徴あるヒノキやスギ、そして最近では飛騨地域の広葉樹のストランドボード開発にも積極的に取り組んでいます。時代とともに、山の状況も変わりますが、山の状況や管理など、山に寄り添ったかたちでいかに社会に価値あるものを創っていくか、そうした想いは設立当時から変わらないものとして受け継がせてもらっています。

SDGsの取り組みとして、二十数年培ってきたストランドボードの技術を土台とし、いぐさやヨシ、竹、もみながら、稲わら、茶葉のカスタマイズのボード建材開発をはじめ、コーヒー豆カス等の食品廃材、工場から排出されるパッケージ端材や木質端材等の循環を目指した新たなボード開発にも取り組ませていただいています。



大学との連携によるものづくり



木育による作品づくり

また、「想いをつなぎ」を理念に、地域や企業、行政、NPOをはじめ大学や高校、子供たちと一緒に想いをのせた建材開発や木育、大学研究・VR等の研究など、たくさんの方と関わり、未来を創っていく取り組みを実践しています。

■メッセージ

時代の変化とともに、社会や地域の状況も変わっていきますが、変わらないものとして会社の理念や自分自身の人生観があると思っています。弊社でも創業者の想いや設立時の理念を大事にし、その上で時代に合わせたビジョンがあります。私たちが目指すのは、大量生産、大量消費の建材ではなく、少量生産から社会や地域に寄り添い、想いを伝えることのできる建材開発・製作の実践を通じた心豊かになる共感社会づくりです。

多くの仲間とともに、想いを共感しあい、利他の心でより良い社会を創っていければと考えています。

○連絡先

〒509-0108 岐阜県各務原市須衛町7-74-5
電話：058-379-3023
<https://s-wood.jp/>



ステークホルダーと想いを形に



シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第32回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「クリスマスツリー」

戦中及び戦後復興期の乱伐を受けて、昭和三十年頃は国土の荒廃が強く憂慮されていた時代でした。こうした背景から、昭和二十九年より国土緑化推進委員会などによって森林資源の浪費につながりかねない門松とクリスマスツリーの自粛運動が行われていました。



昭和37年 浅間山におけるクリスマスツリー盗伐防止パトロール

その一方でクリスマスツリー用木のニーズは存続し、若齢木の盗伐が国有林でも続発、昭和三十年代後半のシーズン前には首都圏からアプローチしやすい浅間山周辺で盗伐防止のパトロールが行われる事態にもなっていました。



昭和五十九年 ツリー販売の宣伝看板 (現在の東信森林管理署)

しかし時代は移り、戦後に植栽した造林木が成長してきた昭和五十年代後半から平成初期にかけては、各営林署での収入を上げるため、ウラジロモミ類などをクリスマスツリーとして販売する試みが行われました。



平成4年 名古屋港に設置されたツリー (現在の飛騨森林管理署が販売)

現在でも一部の市町村で正月用門松の代替品として門松カードが配布されていますが、これは門松とクリスマスツリーを自粛していた時代の名残でもあります。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。当サイトへは、コードを読み込んでください。



富山県では希少な常緑広葉樹の天然林

愛本ウラジロガシ等 遺伝資源希少個体群保護林

設定目的

当保護林にみられるウラジロガシ、ケヤキは、富山県内でまとまって生育している天然林が少ないことから、これらの個体群の保護・管理をしています。

地況・林況

飛騨山脈(北アルプス)の北端から流れる黒部川の中流部、山岳地形である黒部溪谷帯から平野である黒部扇状地へと移行する境界(扇頂部)に所在し、河川を挟むような形で位置しています。

暖温帯林にみられる常緑広葉樹が生育しており、河川に近接し風が強くあたる岩山に、高齢のウラジロガシの群落が成立しています。

また、学術上貴重な存在であることから、富山県の県指定天然記念物に指定されています。

所在地
富山県 黒部市



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、コードを読み込んでください。

今井さん

従事者の姿を発信する良い機会であり、社員の意識も高まると考え、みんなに声をかけて応募しました。この写真は、冬山での伐採作業

作品のことを教えてください！

コンテストのを知り、林業

昨年度の「中部の森林林業従事者写真コンテスト（フォトコン）」において入選された、有限会社松橋林工の今井社長に、作品や国有林についてなど、取材させていただきましたのでご紹介します。



作品名：「休憩ちょっといっぷく」

フォトコン作品からもっと伝えたい林業の魅力！

国有林での

仕事について教えてください！
祖父と父が鞍掛峠の岐阜県側で土木関係の作業をしていた時、木

のあと、暖かな日差しの下で昼食をとっている時の一枚で、いつもの明るい雰囲気を手く撮影できました。
とても体格が良いですね！
若いアルバイトの男の子たちは、彼らのような鍛えられた体と比較されるので、一緒に着替えることを嫌がります。山の上まで苗木やシカ食害防護用の資材を担いで運搬するなど、力を必要とする作業を当たり前に行っています。木に登って伐採する「特殊伐採」の資格を持っている社員もおり、現場で働ける体になっていきます。
最近、ドローンが苗木や資材を運ぶ様子を目の当たりにして、「今まで先輩方や自分たちが苦労してきた作業なのに、こんなに楽をして良いのか！」という感想を持っている社員もいます。ドローンなどの新技術は、高性能林業機械のように上手に使っていきたく考えています。

お二人とも

曾署の担当区主任（現在の森林官）がやって来て、長野県側の三浦国有林で造林をやってみないかと熱心に誘われ、始めたのが松橋林工の始まりです。現在は木曾署、東濃署、岐阜管内の国有林のほか、民有林の造林や生産事業を請け負っています。
現場代理人の社員たちは、お互い良いライバル意識を持ち、切磋琢磨しながら現場作業がうまくいくように状況を確認し、積極的に森林官と話をしています。
今年、二名の若い社員が加わり、更に活気付いていますので、これからも次世代の林業の発展に向けて、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

◆有限会社松橋林工のご紹介◆

昭和四十一年に創業。常に安全作業を考え、実践しながら森林作業に取り組んでいます。丁寧な仕事を心掛け、信頼できる会社を目指しており、一緒に働きたくなる仲間がいるアットホームなところも魅力です。

取材協力／有限会社松橋林工
所在地／中津川市加子母1-462-1-1
電話／0573-79-2820

編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jp まで電子メールでお送りください。)

広報「中部の森林」、今年も1月号から12月号まで予定通り発行することができました！

「私の森語り」にご寄稿いただいた皆様、森林や林業の魅力発信にご協力いただいた皆様、表紙の写真をご提供いただいた皆様など、広報活動を応援して下さった皆様、本当にありがとうございました(*^▽^*)

今月号の表紙は、先月、私が岐阜市内の金華山に登って（ロープウェイ利用）、岐阜城を背に展望台から撮影した1枚です。改めて、その風景を眺めながら、今年も数々の出会いや出来事、別れや悩みがあったことを思い出し、生きていることを実感できる日々を過ごしてきたことに幸せを感じています。

来年も一日一日を大切に、広報誌を発行していきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。それでは皆様、よいお年をお迎えください！



美しい自然を次世代に残すため、土砂災害等から人々を守るため、森林作業に誇りと生きがいを持って取り組んでいる松橋林工の山師たち

中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局
ホームページ

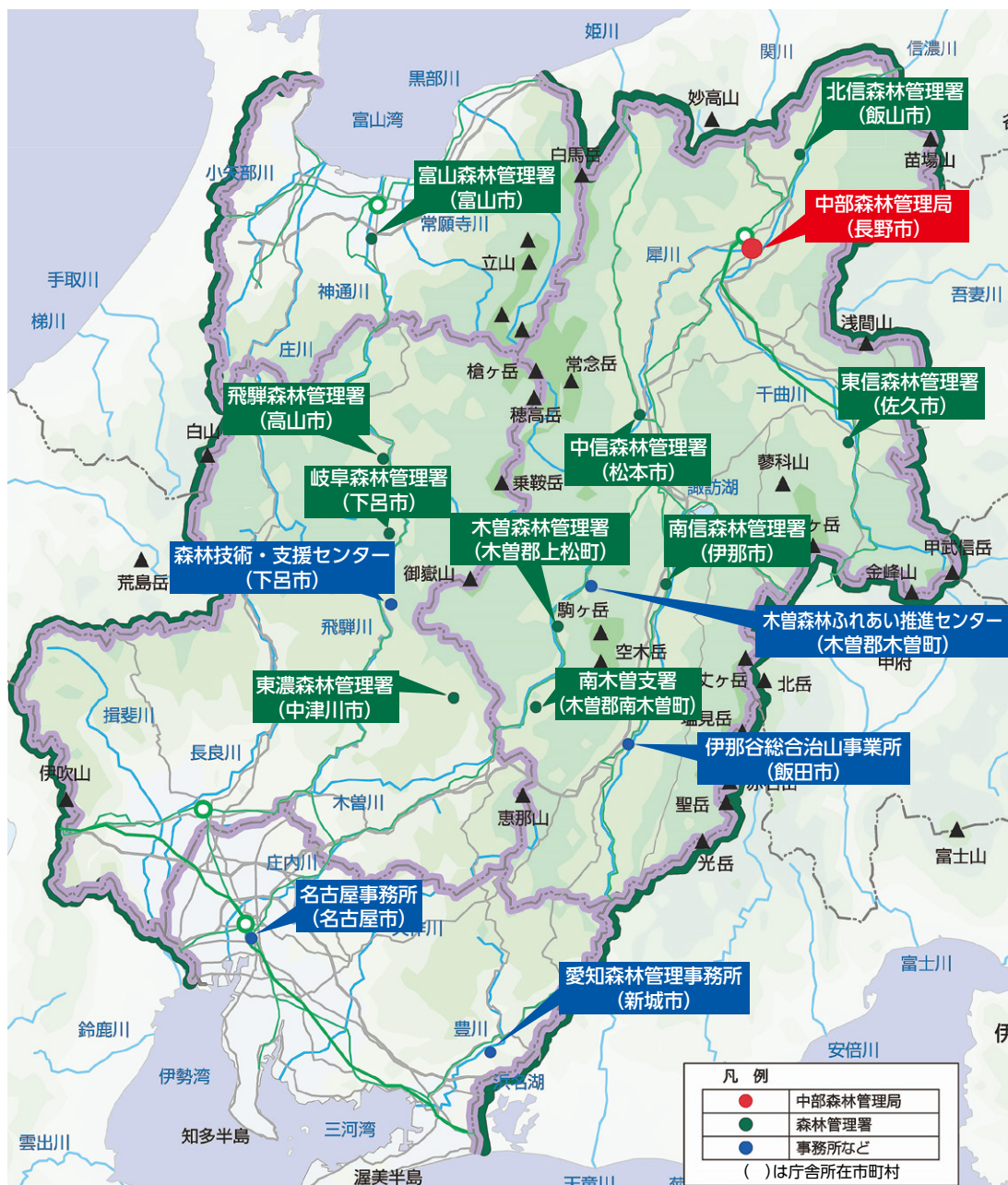


広報
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
Mail：migoro@maff.go.jp
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。